

ICU 同窓生 劇作家・演出家
平田オリザさん監修
— 学生寮紹介ショートムービー 「ICU ノート」 公開 —
<http://www.icu.ac.jp/campuslife/dormitories/index.html>

国際基督教大学 (ICU: International Christian University/学長・日比谷潤子/東京都三鷹市) は、本学同窓生 (1986 年卒業) で、劇作家・演出家として活躍されている平田オリザさんの協力のもと、本学学生とともに学生寮紹介ショートムービー「ICU ノート」を制作し、公開しました。

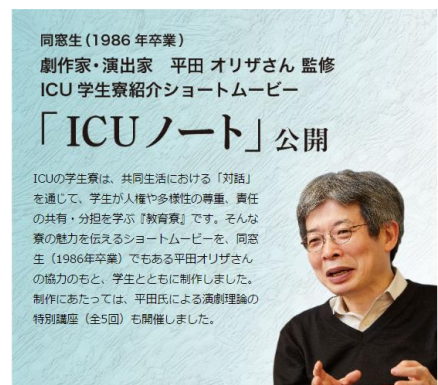
本学では、学生寮を『教育寮』と位置付け、寮生が「対話」を通じて人権や多様性の尊重、責任の共有・分担を学ぶ場としています。そのため、現在学内に 8 棟ある教育寮のほとんどを 2 人 1 部屋として、自然に「対話」が生まれる仕様にしています。2017 年 4 月に開寮予定の新学生寮 2 棟 (定員 128 名、192 名、合計 320 名) でも、この考え方を継承しています。

このショートムービーは、寮の施設紹介ではなく、寮生活における学生の対話と成長を実感していただくことを目的としています。内容は、寮生活経験者の共感を呼ぶ「寮生活のあるあるネタ」の一つ、冷蔵庫の利用に関する問題を取り上げ、寮生たちの何気ない生活の一場面にも、異なる価値観や文化との出会いがあり、これらの出会いと「対話」を通して、寮生たちが自身の先入観に気づいていく様子を表現したものです。

なお、このショートムービーは、本学学生が計 5 回の講座に参加、その後夏休みの課題として制作した原案をもとに、平田さんが脚本修正、監修を行ない、第 8 回田辺・弁慶映画祭でグランプリを受賞した柴田啓佑さんを監督に迎えて作品に仕上げたものです。

計 5 回の講座とは、2016 年の 6 月から 7 月末にかけて特別講座として開講した、平田さんによる演劇理論の講座 (4 回) と 2016 年にカンヌ国際映画祭で「ある視点」部門審査員賞を受賞した深田晃司監督による撮影理論の講座 (1 回) になります。また、出演している役者も学内オーディションを経て選ばれた本学の学生です。

学生寮紹介ショートムービー「ICU ノート」とともに、この講座の様子や、講座から得た学生の学び、そしてショートムービーに込められた平田さんの思いを伺ったインタビューを、本学の Web サイトに掲載していますので、ぜひご覧ください。



学生寮紹介ショートムービー「ICU ノート」

URL: <http://www.icu.ac.jp/campuslife/dormitories/index.html>

* 本学オフィシャル Web サイトのトップページのバナーからもアクセス可能です。

● **平田オリザさん プロフィール**

1986年国際基督教大学教養学部人文科学科（当時）卒業。大学在学中に劇団「青年団」を結成。こまばアゴラ劇場を拠点に「現代口語演劇理論」を確立し、1990年代以降の演劇界に強い影響を与えた。1995年『東京ノート』で第39回岸田國土戯曲賞受賞。2011年にはフランス国文化省より芸術文化勲章シュヴァリエを受勲。東京藝術大学COI研究推進機構 特任教授、大阪大学COデザイン・センター 客員教授などを歴任する。

平田オリザさん インタビュー記事

URL: <http://www.icu.ac.jp/campuslife/dormitories/making.html>

● **学生寮紹介ショートムービー 特別講座概要（2016年）**

- 第1回 6月3日 演劇の仕組みを理解し、「場所・背景・問題」を設定する
- 第2回 6月10日 登場人物を決定する
- 第3回 6月27日 プロットとエピソードを考える
- 第4回 7月7日 脚本修正
- 第5回 7月20日 映像制作について学ぶ

講座の概要

URL: <http://www.icu.ac.jp/campuslife/dormitories/making.html>



● **参加学生の学び**

自分が経験した学生寮の本当の魅力を、
多くの人に伝えたかった

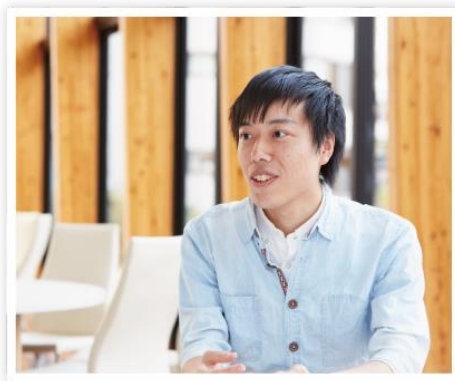
中学高校と6年間の寮生活を送っていた私は、日頃から一般的な大学の学生寮紹介動画はやや物足りないと感じていました。寮の良さは、安全性や利便性だけではありません。教室で見る表の顔ではない、さまざまな人の素の姿に触れられること。型通りの優等生ではない、ユニークな生き方をしている人たちと出会えること。今回の講座は、そんな自分が体験してきたリアルな寮の良さ



須藤 由佳さん 教養学部4年
メジャー：文学

を形にして伝えるチャンスだと思いました。

脚本は、寮への思い入れと、受験生の皆さんに「ICUの寮紹介は他の大学と違うな」と感じてもらいたいという一心で制作しました。普段から自分でも脚本や小説を書いていたのですが、平田さん独自の手法を学んだことは視点が変わる面白い経験でした。登場人物とプロットを最初に決める方法やキャラクターごとの個性の出し方は特に参考になりました。自分なりのやり方に加えて他の方の創作手法を学んだことで、作品自体も非常に深まったと思います。



田村 智さん 教養学部1年
メジャー：未定

他者を本当に理解するとは、どういうことか

講座で学んだ脚本の理論は魅力的でした。「登場人物はキャラクターよりも、ファンクション（どういう情報を持っているか）から考える」「情報を小出しにして観客の想像を広げたり狭めたり誘導することで飽きさせない」など、良い脚本を作る上での客観的で分かりやすい基準があることを知りました。

平田さんは対話について言及されることも多かったのですが、特に重病人の奥さんと医師の話が印象的でした。「この薬は効くのか」と何度も尋ねる奥さん

に対し、看護師はその度に薬の効用を説明した。医師に同じことを尋ねた時、医師は一言「奥さん、辛いねえ」と言い、奥さんは泣き崩れた。奥さんが本当に求めていたのは医学的な説明などではなく、悲痛な叫びへの共感だったという話です。このエピソードは、対話ができる気になっている人が心に留めておくべき話だと思います。言葉の発し手ですら、自分の心が本当に求めていることが分からない場合もある。相手が本当に伝えたいことは何か、言外の意味を汲み取ることができる人でありたいと思うようになりました。

参加学生の学び

URL: <http://www.icu.ac.jp/campuslife/dormitories/making.html>

● **本件の問い合わせ先**

国際基督教大学(ICU)パブリックリレーションズ・オフィス（担当：佐藤・橋本）

Tel : 0422-33-3040 Fax : 0422-33-3355 E-mail : pro@icu.ac.jp